

公園内で見られる植物

写真は12月10日(日)
自然観察会で見られた
植物などです



クログネモチ (モチノキ科)

樹皮から鳥もちがとれ、葉柄や本年枝が紫色をおびる事から、黒鉄騎(クログネモチ)の名が付いたそうです。街路樹としてよく植えられていますね。雌雄別株なので、うちの木には実が付きません。クログネモチは今年枝の葉腋に花芽を付けます。(その他ソヨゴ、イヌツゲ、ナナミノキ等)
(参考:同じモチノキ科のモチノキ、タラヨウ、ツゲモチ、ヒメモチは前年枝の葉腋に花芽を付ける)



アオキ (ミズキ科)

一年中青々としていることから付けられたとされるアオキですが、葉に黄色い斑入りのもの(園芸種)を近頃よく見かけます。葉の色で最初アオキだとは思わず、別の木だと思っていました。実は緑色から赤く色づくものもあれば、淡黄色のもの(キミノアオキ)、白いもの(シロミノアオキ)もあるそうです。



ヤブコウジ (サクラソウ科)

正月の縁起物の一つで十両と呼ばれて、寄せ植えの材料として親しまれています。コケ玉の材料によく用います。万葉集にも「山橘(ヤマダイバナ)の名で詠まれ古くから日本人に愛されています。落語の『寿限無』に出てくる「やぶらこうじのぶらこうじ」とはおめでたい名前なのでこのヤブコウジを指すのではと思いますが？



フユイチゴ (バラ科)

バラ科ですから当然、棘があると思いがちですが中には棘の無いものもあります。多くの木苺類は夏に熟しますが、フユイチゴは冬に熟すのでこの名前が付いています。別名「カンイチゴ」と言います。実は種が口に残るので、私はあまり好きではありません。



コバノガマズミ (スイカズラ科)

赤く熟した実は、甘酸っぱく私は好きです。ガマズミとよく似ていて区別しにくいのですが、ガマズミと比べて葉が小型で、葉柄がごく短いのが特徴です。若葉のころは両面に星状毛が密生していて指で触るとビロードのような感触があります。花は小さい白花が密集していて、遠目で見るときれいです。



ソヨゴ (モチノキ科)

かたい葉が風にそよいで、音をたてるから付いた名と言われています。葉を揺るとソヨソヨと音がしますよ！ 雌雄別株なので白い小さな花は咲きますが、実が付くのは雌株だけです。長野県や山口県の一部では、ソヨゴをサカキの代用としているそうです。葉を熟すると膨れてパチンと音を立ててはじけるので、岡山県では「ふくらしば」と呼ぶそうです。



ヘクソカズラの实 (アカネ科)

別名「サオトメカズラ」。花の姿を早乙女のかぶる笠に見立てたものだそうです、かわいらしい花ですよ。匂いから最悪の名前が付いていますが、葉を揉んだり、実をつぶしたりしなければ匂いしませんよ。ツル性の多年草で左巻きに伸びています。



タラヨウ (モチノキ科)

名前の由来は、葉裏に細いもので字等を書くと黒く変色して浮きあがる性質から、インドで葉に経文を描く多羅樹（タラジュ：ヤシ科のウチラヤシ）のようだというので、多羅葉という名が付いたそうです。私は「葉書の木」として覚えました。実際に切手を貼って出すことができるそうです。



ジャノヒゲ (ユリ科)

常緑の多年草。実は10月頃までは美しい緑色で、12月頃に入ると深い紺色に色づきます。葉の根元で成熟します。紺色の種子は珍しいですね。根茎で増えますから、いつの間にか大きくなって、庭先に植わっていると結構厄介です。